


 愛知 13 区
 碧南・刈谷・安城・知立・高浜

前衆議院議員

タイトル

自民党圧勝の傷跡

おおにし健介

自民党の歴史的圧勝から早いもので4か月が経ち、現在、開かれている特別国会の会期もあと1か月あまりとなりました。

中道改革連合、立憲民主党、公明党の3党の合流の見通しは未だ不透明なまま、野党の支持率は全て5%以下の団子状態で、国政は「多弱化」、「自民1強」の様相を呈しています。

そうした厳しい状況の中、引退や転身を決断する仲間も増えていますが、私は、多くの皆さまのご厚情とご支援のおかげで、細々とではありますが、地道な政治活動を続けております。

ただ、外から国会を見ていると、自民党の圧勝の傷跡は大きいと感じています。

1. 国会軽視の象徴の補正予算軽視

私は、早い段階で、補正予算の国会提出を行うべきと主張していました。私も「補正頼り」の常態化を改めようという高市さんの考えには賛同しますが、米国とイスラエルによるイラン攻撃が起きたのは2月末で当初予算の編成と総選挙の後のことであり、躊躇する理由はなく、むしろ遅すぎます。

直前の国会答弁では、補正予算の編成は必要ないと答弁していたのに、党首討論の2日前になって、突如、政府与党連絡会議で方針転換を表明したのは、党首討論で野党に迫られる前に「先手を打った」のは明らかで、国会を馬鹿にしています。

何より問題はその中身です。歳出総額3兆1千億円のうち、一般予備費5千億円、中東情勢等対応予備費2兆5千億円と予備費がほとんどを占めています。

憲法は、政府の支出に国会の事前議決を義務づけており、例外的に「予見しがたい予算の不足に充てるため」に予備費の計上を認めています。かつては、災害対応

Profile



▶昭和46年4月13日生まれ

▶京都大学 法学部卒

▶国会職員、在アメリカ大使館二等書記官、衆議院議員 馬淵澄夫政策担当秘書を経て、平成21年第45回衆議院議員総選挙で初当選以来、連続6期当選するも、令和8年第51回衆議院議員総選挙にて惜敗

▶党務では、選対委員長、青年局長、税制調査会長等を歴任

▶国会では、予算委員会ほか、厚生労働委員会、消費者特別委員会、経済産業委員等にて活躍

 ▶中学生、高校生2人の男の子のパパ
 ニックネームは「オニケン」

等のために限定的に計上されていた予備費がコロナ対応以降、政府の「プリペイドカード」になってしまっています。「何に使うかわからないけど、とりあえずチャージして」というのは、国会軽視も甚だしいと思います。予備費の大幅な積み増しは、政府への白紙委任につながり、財政民主主義に反します。さらに、国会での審議時間は衆・参一日ずつというのも国会軽視です。



2. 緊張感の欠如と風(なぎ)状態

戦後最多の316議席を獲得し、単独で衆議院の3分の2を占めた高市政権は、世論調査では、依然として高い支持率を誇っています。

一方で、個別政策に対しての支持は必ずしも高くなく、物価高対策やナフサ関連製品の不足への対応などに対する国民の不満は高まっています。つまり、高市「支持」は、初の女性首相や石破さんにはなかった歯切れ良さといったキャラやイメージに対する好感度によるところが大きいと言えます。

自民党議員も「高市人気」に何も言わないだけで、心から首相を支えようという熱がない、政界は「風」の状態、淀んだ空気が漂っています。

そんな中、党内に派閥のような支持基盤を持たない高市首相を支えようと、自民党内に「国力研究会」という新たな議員連盟が立ち上がりました。発起人には、昨年の総裁選で高市さんと争った顔ぶれがずらりと並び、高市人気にあやかりたい議員が押し寄せた結果、衆参所属の自民党議員417人中347人が参加する議連となりました。これには「第二の両院議員総会で意味がない」、「大政翼賛会みたいだ」との声が上がりました。

この動きを裏で糸引くのは、御年85歳の麻生太郎最高顧問です。一旦は、麻生支配からの決別を凶ろうとした高市さんは、結局、麻生さんの軍門に下るしかありませんでした。数にモノを言わせてキングメーカーとしての権勢を振るう「古い政治」は、本来、「高市人気」支える世論が最も嫌悪するもののはずです。

こんな権力争いにかまけている暇があったら、選挙で得た圧倒的多数を使って、もっと国民のために仕事をすべきです。特に、国政選挙がしばらくない「黄金の期間」は、「強い政権」でなければできない長期的な課題に取り組むべきです。ところが、高市さんが腐心するのは国旗損壊罪のような保守派を意識した小さな政策です。

これなら、与野党が拮抗していた方が様々な改革が進むのではないのでしょうか。与党だけでなく、野党もマスコミも、高市政権の高支持率の前に、「今は何を言ってもむなしだけ」という雰囲気漂っているのは情けないことです。

「おおにし健介」、出前します!

現職の時は、国会会期中は平日は東京で、また、党幹部として地方への出張なども多く、なかなかゆっくり時間を取ることができませんでしたが、今は余裕があります。小さな集まりでも、飲み会でも、おおにし健介を呼んでください。